

関節リウマチに新薬

東京医科歯大など開発

骨の破壊と炎症の両方を抑えることができる新たな関節リウマチの治療薬を、東京医科歯科大の高柳広教授と日本ケミファ（東京）などの共同研究チームが開発した。これまでにはないメカニズム

で、非常に強い効果が期待できるという。1日付の米科学誌「サイエンス」に掲載された。関節リウマチは、過剰な免疫反応によって関節の骨が破壊され、腫れを伴う炎症が起きる病気。

国内の推定患者数は約70万人。現在の治療薬は炎症を抑えるタイプが主流で、骨に対する効果はほとんどないという。高柳教授らは、骨を分解するとき働く「カテプシンK」というタンパク質分解酵素に着目。この働きを阻害する物質を見つければ、関節リウマチの症状を示すラットに経口投与して効果を調べた。その結果、関節の骨の破壊が予想通りに抑えられただけでなく、周囲の炎症も大幅に軽減されることを確認。遺伝子操作したマウスでメカニズムを詳しく調べたところ、骨の破壊と免疫活性化による炎症の両方を同時に抑えることが分かった。

(右)産経新聞
2008年2月1日(金)
高柳教授

(左)日本経済新聞
2008年2月1日(金)
高柳教授

多発性硬化症などの自己免疫疾患や、骨粗鬆症などにも効果があるとみており、まず多発性骨髄腫を対象に年内に米国で臨床試験を開始する。

大ど
歯医
京東
な東

関節リウマチ薬候補

骨減少と免疫抑制に効果

東京医科歯科大学の高柳広教授と朝霧成孝講師、日本ケミファなどの

見つけた。今年中に米企業と協力して米国で臨床試験を始める。二月一日

炎症を起こしたりする。研究チームは酵素「カテプシンK」が両方の症状

研究チームは、関節リウマチや多発性硬化症などの新たな治療薬候補を開発した。骨の減少と免疫

付の米科学誌サイエンスに掲載される。関節リウマチや多発性硬化症などの自己免疫疾

を促していることを見つけた。この酵素の働きを抑える新薬候補物質を試作。関節リウマチのネズミに

の過剰な働きによる炎症の両方を抑制する物質を

たり、免疫が過剰に働き

投与したところ、骨の減少が止まっただけでなく、炎症も抑えられた。カテプシンKには免疫細胞を活性化する働きがあり、新薬候補物質が骨の吸収を抑えるとともに、炎症を抑制したという。

米ベンチャー企業と協力し、多発性骨髄腫の治療薬として臨床試験を計画中。がんが骨に転移する際に骨を壊す症状を抑制できるとみている。

投与したところ、骨の減少が止まっただけでなく、炎症も抑えられた。

米ベンチャー企業と協力し、多発性骨髄腫の治療薬として臨床試験を計画中。がんが骨に転移する際に骨を壊す症状を抑制できるとみている。

の両方を抑制する物質を

たり、免疫が過剰に働き

投与したところ、骨の減少が止まっただけでなく、炎症も抑えられた。

米ベンチャー企業と協力し、多発性骨髄腫の治療薬として臨床試験を計画中。がんが骨に転移する際に骨を壊す症状を抑制できるとみている。